

その他

平成21年度東北地域大学教育推進連絡会議

弘前大学FDワークショップ

～メンターリングと教育者総覧を中心に～

弘前大学 21 世紀教育センター高等教育研究開発室

土持ゲーリー法一

(ファカルティ・デベロッパー)

はじめに

弘前大学では、文科省特別教育研究費「ティーチング・ポートフォリオを活用したFD活動の展開」を受け、ポートフォリオ（ティーチング/ラーニング）を活用した授業評価および授業改善に関するFD活動を行っている。本年度は、以下の東北大学高等教育開発推進センター編『ファカルティ・デベロップメントを超えて～日本・アメリカ・カナダ・イギリス・オーストラリアの国際比較』（東北大学出版会、2009年）を参考に、先進4カ国（アメリカ・カナダ・イギリス・オーストラリア）におけるFD/EDの取り組みを調査し、授業改善等に活かすため、教員（職員を含む）をカナダのSTLHE（6月）、オーストラリアのHERDSA（7月）年次大会に参加させ、アメリカのPODネットワーク（10月）、イギリスのSEDA（11月）に派遣させる予定にしている。



本日は、弘前大学が授業評価および授業改善に取り組んでいる二つのFDワークショップ（6月と11月）について報告する。

1) 6月FDワークショップ

6月FDワークショップは、21世紀教育センターおよび教育・学生委員会主催の1泊2日の研修の授業シラバス作りを体験するプログラム「単位制度の実質化を図るための能動的学習の実践～ラーニング・ポートフォリオの活用」と題するテーマで、添付資料「第7回弘前大学FDワークショップ日程表」のように行われた。このワークショップの特徴は、学生参加型によるもので、教員と一緒に10名の学生がすべての活動に参加した。そのうちの5名は、実際に、授業でラーニング・ポートフォリオを作成した経験があり、自ら作成したラーニング・ポートフォリオを配付資料として紹介するとともに、各テーブルに分かれて、授業シラバスや成績評価との関連について説明する重要な役割を担った。とくに、夕方

(添付資料の日程表参照)の学生による話題提供「学生から見た『学ぶ』とは何か～ラーニング・ポートフォリオを書いてみて～」(50分)は、学生からのフィードバックを聞くというユニークな取り組みであった。これまで、授業改善を教員の視点だけで見たものを、学生の視点を通して「学ぶ」とは何かについて自由に意見が述べられた。参加した『読売新聞』『教育ルネサンス』担当記者からも示唆に富むものであったとの評価を受けた。



第7回 弘前大学FDワークショップ集合写真



学生を中心とする各グループ作業の写真

2) 11月FDワークショップ

11月FDワークショップも、21世紀教育センターおよび教育・学生委員会主催による1泊2日の研修

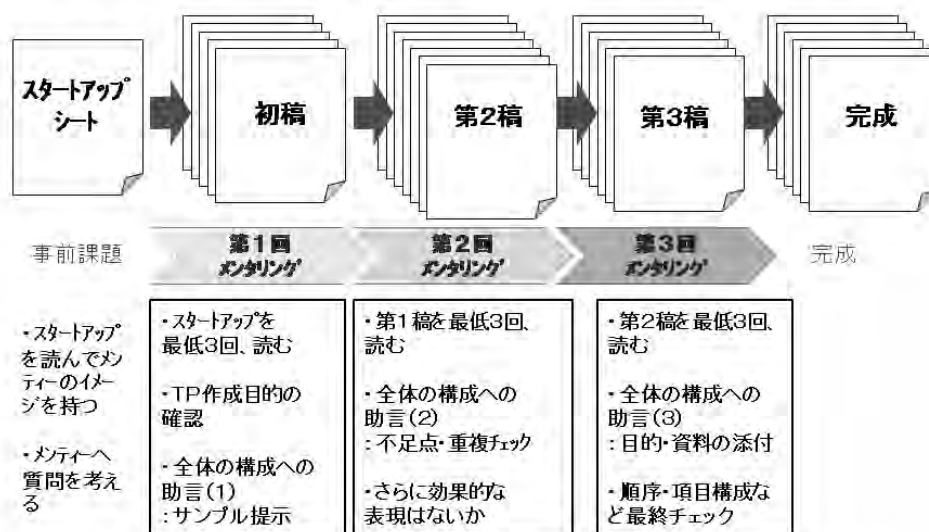
プログラムである。これは、「メンターリングと教育者総覧」に関連するもので、本学独自の授業改善の取り組みといえる。

優れたティーチング・ポートフォリオが書けるようになるかどうかは、偏に、メンターにかかっていると言っても過言ではない。2009年3月21日の京都大学高等教育研究開発推進センター主催「第15回大学教育研究フォーラム」のラウンドテーブル「ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップから見た今後の課題と可能性」で、東京農工大学大学教育センター・加藤由香里准教授は、「メンターの役割」と題して発表し、次頁のような図表を紹介した。

なぜ、メンターが重要なのか。それは、教員に授業を「ふりかえらせ」、教員の授業哲学がどのようなものであるかを考えさせる働きをするからである。「メンター」は、「コーチング」と同じように使われることが多いが、厳密には違う。詳細は、拙著『ラーニング・ポートフォリオ学習改善の秘訣』（東信堂、2009年）を参照してもらいたいが、コーチングが「変化」を促すのに対して、メンターは「省察」を促す。

誰がどのようにメンターを養成するかは、今後のティーチング・ポートフォリオの展開ともかかわり、重要な課題である。

TP作成の流れ(メンターの役割)



出典: 加藤由香里「メンターとして」『第15回大学教育研究フォーラム』ラウンドテーブル「ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップから見た可能性と課題」

メンターは、もともと、経験豊かな先輩教員が後輩教員（メンティー）に助言・指導を与えるもので、ティーチング・ポートフォリオの作成だけに限ったことではない。北米のように、FD/ED デベロッパーがいるところは、彼らがメンターになることができるが、日本のように、教員がFD/ED を兼ねるような場合は、どのようにメンターを養成するか重要な課題であるといえる。徳島大学・大学開放実践センターでは、10年以上の教育経験者で他の教員にメンターとして接することのできる教員の能力を向上するための「FDリーダーワークショップ（1泊2日の合宿研修）」を行っている¹⁾。ティーチング・ポートフォリオのメンターになるには、自らティーチング・ポートフォリオを作成した経験を有していることが望ましい。カナダのダルハウジー大学のティーチング・ポートフォリオのワークショップでは、メンターとして資格が与えられる教員は、ベスト・ティーチャー賞を受賞したり、評価審査委員会委員を歴任したりした経験者あるいは学部長経験者が含まれた。メンターは、ティーチング・ポートフォリオ

の書き方のノウハウを指導するのではなく、教員自身に「ふりかえらせ」、気づかせるためにメンターリングをする。経験豊富なメンターであれば、上手に引き出すことができるだけでなく、どのような点が審査委員に注目されるかも熟知している。一人のメンターが、メンターリングできる人数は3～5名程度である。

2009年8月3日、大学評価・学位授与機構主催による大学評価フォーラム「内部質保証システムの充実をめざしたアカデミック・リソースの活用～個性ある大学づくりのために～」が開催された。フォーラムのパネルディスカッションでは、先駆的な取り組みで注目される愛媛大学の柳澤康信学長が「ティーチング・ポートフォリオ導入に向けた取り組み」と題して事例報告をした。この中で、愛媛大学におけるメンター養成についてのワークショップの事例が紹介された。専門職としてのメンターを養成することは重要であるが、膨大な時間とエネルギー、そしてコストがかかる。同じパネルディスカッションで、国際基督教大学における「昇進のための自己評価報告書」の事例も紹介されたが、同大学ではメンターリング的指導は行っているが、必ずしも、メンターがいるわけではなく、専門家としてのメンターがいなくてもできるということになる。

弘前大学では、弘前大学版ティーチング・ポートフォリオ「教育者総覧」をウェブで公開していることが『読売新聞』『教育ルネサンス』で紹介された。「教育者総覧」の記入項目は、①授業に臨む姿勢、②教育活動自己評価、③授業改善のための研修活動等、④主要担当授業科目の概要と具体的な達成目標、⑤具体的な達成目標に対する達成度で、最近、学生の自由記述アンケートに対応するために、新たに、⑥学生からの要望への対応のための項目を加えた。



ダルハウジー大学ティラーセンター長を囲んでの2008年11月FDワークショップ集合写真

これは、ティーチング・ポートフォリオとしては不十分である。なぜなら、教員の自己申告にまかされているため、メンターによるメンターリングのプロセスを経っていないからである。そのような反省もあり、弘前大学FDワークショップでは、昨年度（2008年）、カナダのダルハウジー大学リン・ティラー（Lynn Taylor）を特別講師に迎え、ティーチング・ポートフォリオの核心となるティーチング・フィロソフィー（授業哲学）に関するセミナーを行った。セミナーの後、全国の大学に先駆けて、カナダのダ

ルハウジー大学でティーチング・ポートフォリオのワークショップに参加して「認定書」が授与された教員（8名）がメンターとなって、各学部から参加した教員（15名）にメンターリングを行った。今年度は、ラーニング・ポートフォリオに関するアメリカの権威者でコロンビア・カレッジのジョン・ズビザレタ（John Zubizarreta）教授を招聘して、ラーニング・ポートフォリオに関する全学FD講演会、そしてティーチング・ポートフォリオにおけるメンターリングの役割に関するセミナーを行い、それを受けて、昨年と同様に同僚教員によるメンターリング活動を行うことにしている。今年度は、昨年度メンターリングを受けた教員もメンターに新たに加わり、徐々にメンターの数を増やしていくようにしている。このように、本学では、同僚教員がメンターとしての重要な役割を担っている。



メンター同僚教員からメンターリングを受けるメンティー同僚教員の写真

メンターリングを受けた結果、どのように変化が見られたか、「ワークショップ前」と「メンターリング後」を比較することで、メンターの役割やメンターリングの機能がどのようなものかを知ることができる。たとえば、①授業に臨む姿勢は、教員の授業哲学に相当する最も重要な部分となるが、以下の事例は、メンターリングを行ったことによる変化である。

【FD ワークショップ前】

心理学はひとつの答えがある学問ではなく、ものの見方や考え方そのものについての学問であり、そこが面白いところだと考えています。

授業では、単に既存の理論や法則を学んでもらうのではなく、さまざまな見方や考え方に触れ、また自分なりの考えを持つことができるようになることを目指し、実験や実習、討論などを取り入れていきたいと考えています。

【FD ワークショップ後】

心理学はひとつの答えがある学問ではなく、ものの見方や考え方そのものについての学問であり、そこが面白いところだと考えています。

授業では、単に既存の理論や法則を学ぶのではなく、ディスカッションを出来るだけ多く行いたいと考えています。これは、さまざまな見方や考え方に触れ、また自分なりの考えを持つことができるようになることを目指しているからです。

このような授業を通して、客観的で柔軟で謙虚な（独りよがりや思い込みではないという意味で）ものごとの捉え方や他者とのふれあい方、さらには自分自身のあり方を感じ、考え、それを身につけるきっかけになればと考えています。

なお、主要担当授業科目は教育学部の自己形成科目群に位置づけられる「心理学演習」です。

【メンターリング後】

心理学はひとつの答えがある学問ではなく、ものの見方や考え方そのものについて学ぶ学問であり、そこが面白いところだと考えています。そのことについて学生にもっと知ってもらいたいので、学生の主体性・能動的学習を尊重したいと考えています。

具体的には、学生に単に既存の理論や法則を学ばせるばかりでなく、ディスカッションなど双方向授業、参加型学習を目指しています。これが私の授業哲学でもあり、物事のさまざまな見方や考え方に触れ、自分自身のあり方に気づき、自分の考えを確立してもらいたいと考えています。これは、学生が社会に出てからもアイデンティティに基づいての社会貢献につながるものだと考えるからです。

弘前大学の事例からも、同僚教員がメンターの役割を担うことができると考えている。ティーチング・ポートフォリオの作成には、省察、共同作業（メンターリング）、証拠資料の3点が必要である。すなわち、共同作業がメンターリングの役割を果たすことができる。メンターとしての必要条件是、傾聴（Deep Listening）し、効果的な発問（Powerful Questioning）を促し、メンティーに考えさせることで、メンターの価値観を押しつけないことが重要である。そのためには、専門分野以外の人がメンターになることが望ましいとされる。

注

1. 「徳島大学におけるFD実施組織としての役割と機能—大学開放実践センターFD活動の事例分析より—」『京都大学高等教育研究』第14号（2008年）75頁参照。

添付資料

第7回弘前大学FDワークショップ日程表

会場：青森ロイヤルホテル（大鰐町）

月 日	第1日
時 間	平成21年 6月13日（土）
8:30	弘前大学総合教育棟前集合 受 付
8:40	弘前大学総合教育棟前発→青森ロイヤルホテル到着（9:20） （バス乗車）研修開始：オリエンテーション
9:15	青森ロイヤルホテル到着 玄関前で記念写真 撮影後ワークショップ会場へ
9:30	挨拶「教員の夢と希望」 副学長 須藤 新一
9:45	挨拶「学士力（学士課程の学習成果）の育成と成績評価の厳格化」 センター長 木村 宣美
10:00	ミニレクチャー「21世紀教育のFD活動」 FD・広報専門委員長（副センター長）大高明 史
10:35	ミニレクチャー「FDの動向：ファカルティ・デベロップメント（FD）から エデュケーション・デベロップメント（ED）への移行」 FD・広報専門委員（副センター長）土持 法一
11:10	休 憩（10分）
11:20	研修のオリエンテーション「初任者研修－ティーチング・フィロソフィー（授業哲学） と教育者総覧」 FD・広報専門委員（副センター長）土持 法一
11:45	昼 食（60分）
12:45	ミニレクチャー「学習目標」－「中央教育審議会『答申』と単位制度の実質化」 （25分） グループ作業Ⅰの課題説明（5分）
13:15	グループ作業Ⅰ「授業の設計1：授業の副題・目標の設定」（60分）
14:15	各グループ発表・全体討論（50分） 司会進行：FD・広報委員 長 南 幸 安
15:05	休 憩（15分）
15:20	ミニレクチャー「学習方略」－「中央教育審議会『答申』と授業シラバス」 （25分） グループ作業Ⅱの課題説明（5分）
15:50	グループ作業Ⅱ「授業の設計2：（目標の手直し）と学習方略」（60分）
16:50	各グループ発表・全体討論（50分） 司会進行：FD・広報委員 田名場 美雪
17:40	休 憩（5分）
17:45	話題提供「学生から見た『学ぶ』とは何か－ラーニング・ポートフォリオを 書いてみて－」（50分） FD・広報専門委員（副センター長）土持 法一
18:35	休 憩（宿泊室の鍵渡し）（15分）
18:50	夕食・懇親会
21:00	
22:00	

第2日 平成21年 6月14日(日)	
7:30	朝食
8:30	ミニレクチャー「評価」―「ラーニング・ポートフォリオと評価基準」 (25分) グループ作業Ⅲの課題説明(5分)
9:00	グループ作業Ⅲ「授業の設計3:(学習方略の見直し)と評価」(60分)
10:00	各グループ発表・全体討論(50分) 司会進行:FD・広報委員 内海 淳
10:50	休憩(10分)
11:00	参加者の個人的感想や意見(60分) 司会進行:大高FD委員長, 土持委員
12:00	昼食(60分)
13:00	青森ロイヤルホテル発(バス乗車)
13:40	弘前大学総合教育棟前着

備考: 詳細については、「ティーチング/ラーニング・ポートフォリオを活用した授業評価と授業改善への取り組み」東北大学高等教育開発推進センター編『学生による授業評価の現在』(東北大学出版会、2010年)を参照。この中には、実際の学生のラーニング・ポートフォリオ(2点)も紹介されている。